

1

be 動詞

◆指導ページ P.2～7◆

【主な学習内容】

- be 動詞の文
- be 動詞の疑問文と否定文
- There is[are] ～. の文

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 be 動詞の用法</p> <p>☆ be 動詞の意味・用法</p> <p>① 「～である[だった]」… She <u>is</u> a singer.(彼女は歌手です。)</p> <p>② 「～にいる[～にいた]」… She <u>is</u> in Paris.(彼女はパリにいます。)</p> <p>☆ be 動詞の現在形・過去形→主語の人称・数・時制に注意する。</p> <p>○ 現在形→ am, are, is 過去形→ was, were 〔現在〕 〔過去〕</p> <p>I <u>am</u> very busy. → I <u>was</u> very busy. They <u>are</u> at home. → They <u>were</u> at home yesterday.</p> <p>Ⓢ 注意 〈主語 + be 動詞〉は短縮形で表すことができるものがある。 I am → I'm, you are → you're, we are → we're, he is → he's, she is → she's, it is → it's, they are → they're</p> <p>2 be 動詞の疑問文と否定文</p> <p>☆ 疑問文</p> <p>① be 動詞の疑問文は〈be 動詞 + 主語～?〉で表し、答えるときも be 動詞を使う。 You <u>are</u> an artist. → Are you an artist? 〔答え方〕 Yes, I am. / No, I'm not.</p> <p>② 疑問詞を使った疑問文は〈疑問詞 + be 動詞 + 主語?〉で表す。 彼はどこにいますか。→ Where's he? あなたの名前はなんですか。→ What's your name?</p> <p>☆ 否定文</p> <p>○ be 動詞の否定文は〈主語 + be 動詞 + not ～.〉で表す。 He is a writer. → He is <u>not</u> a writer.</p> <p>Ⓢ 注意 〈be 動詞 + not〉の短縮形 is not = isn't, are not = aren't, was not = wasn't, were not = weren't</p> <p>3 There is[are] ～. の文</p> <p>☆ There is[are] ～. の意味→「～がある」「～がいる」</p> <p>① 単数の場合→〈There is + 単数名詞 + 場所を表す語句.〉 An apple is on the table. → <u>There is</u> an apple on the table.</p> <p>② 複数の場合→〈There are + 複数名詞 + 場所を表す語句.〉 Some apples are on the table. → <u>There are</u> some apples on the table.</p> <p>○ 「～があった[いた]」と言うときは、be 動詞を過去形にする。</p> <p>☆ 疑問文→ be 動詞を there の前に出す。 There <u>is</u> a park near here. → Is there a park near here? 〔答え方〕 Yes, there is. / No, there is not.</p> <p>○ 「いくつの[何人の]～がありますか[いますか]。』 →〈How many + 名詞の複数形 + are there + 場所を表す語句?〉 How many apples are there on the table? 〔答え方〕 There are ten.</p> <p>☆ 否定文→ be 動詞の後に not を入れる。 There was a student in the room. → There was <u>not</u> a student in the room.</p> <p>☆ have[has] を使った書きかえ There are four rooms in the house. → The house <u>has</u> four rooms.</p> <p>Ⓢ 関連 「ここに～がある」は Here is ～. で表す。 ここに1冊の本があります。→ Here is a book.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 〈be 動詞 + 名詞・形容詞〉と〈be 動詞 + 場所を表す語〉の場合、be 動詞の日本語訳が異なることに注目させる。 ● 短縮形は1語扱いとなる。 ● 問題を解く際は、短縮形を意識しておくよう指導する。解答欄の数に応じて、もとの形で書くか、短縮形を使用するかを選択しなければならない。 ● 疑問詞(5W1H) → where(どこ), why(なぜ), who(だれ), which(どっち), when(いつ), how(どのように) ● 疑問詞を使った疑問文は Yes, No で答えることができず、文末は下げ調子で読む。 ・文の最後が上げ調子に読まれていたら、Yes, No で答える疑問文だと、すぐにわかることを確認する。 ● am not には短縮形はなく、I'm not を使うことを確認する。 ● There で始まる be 動詞の形は、あとの名詞(意味上の主語)に合わせる。 ● ふつう文の終わりに場所を示す語句が続くことを説明する。 ● 肯定文中の some は疑問文や否定文では any にかえる。 There are some apples on the table. → Are there any apples on the table? ● There is ～. の have[has] を使った設問は頻繁に出る。 ● There is ～. や Here is ～. の文では、特定のものを指して「～がある」と表現することはできない。 例 私の本が机の上にあります。 × There is my book on the desk. ○ My book is on the desk. 東図書館はこの近くにあります。 × There is Higashi Library near here. ○ Higashi Library is near here.

2

一般動詞

【主な学習内容】

- 一般動詞(現在形)の文
- 一般動詞(過去形)の文
- 現在進行形・過去進行形の文

◆指導ページ P.8 ~ 13◆

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 一般動詞(現在形)の文</p> <p>☆ 一般動詞(現在形) → be 動詞以外の動詞。動作や状態を表す。</p> <p>○ 主語が3人称・単数のとき、動詞の語尾に -(e)s がつく。(have の場合は has。)</p> <p>[主語が3人称・単数以外] We have a bike. [主語が3人称・単数] He has a bike.</p> <p>☆ 疑問文 → Do [Does] + 主語 + 動詞の原形 ~ ?</p> <p>[主語が3人称・単数以外] Do you play the piano? Yes, I do. / No, I do not [don't]. [主語が3人称・単数] Does he play the piano? Yes, he does. / No, he doesn't [does not].</p> <p>☆ 否定文 → 主語 + do [does] not + 動詞の原形 ~ .</p> <p>[主語が3人称・単数以外] I do not [don't] speak French. [主語が3人称・単数] She does not [doesn't] speak French.</p> <p>注意 一般動詞の -(e)s のつけ方</p> <p>① 通常 → s をつける。 use → uses, read → reads ② 語尾が s, o, x, ch, sh, ss → es をつける。 watch → watches ③ 語尾が <子音字 + y> → y を i にかえて es をつける。 study → studies</p> <p>② 一般動詞(過去形)の文</p> <p>☆ 一般動詞(過去形) → 規則動詞と不規則動詞がある。</p> <p>① 規則動詞 → 語尾に -(e)d をつける。 We invite them to our party. → We invited them to our party. ② 不規則動詞 → 動詞によって不規則に変化。 She wakes up early every day. → She woke up early yesterday.</p> <p>☆ 疑問文 → <Did + 主語 + 動詞の原形 ~ ?></p> <p>I play the piano. → Did you play the piano? Yes, I did. / No, I did not [didn't].</p> <p>☆ 否定文 → <主語 + did not [didn't] + 動詞の原形 ~ .></p> <p>I got up early yesterday. → I did not [didn't] get up early yesterday.</p> <p>注意 不規則動詞の例</p> <p>hit → hit, find → found, come → came, ring → rang など</p> <p>③ 現在進行形・過去進行形の文</p> <p>☆ 進行形 → <be 動詞 + ~ ing> 「~している, していた」</p> <p>① 現在進行形 → am [are, is] ~ ing 「~している」 I cook lunch every day. → I am cooking lunch now. ② 過去進行形 → was [were] ~ ing 「~していた」 They played baseball. → They were playing baseball.</p> <p>☆ 疑問文 → be 動詞を主語の前に出す。</p> <p>Were they playing baseball? Yes, they were. / No, they were not [weren't].</p> <p>☆ 否定文 → be 動詞の後に not を入れる。</p> <p>They were not [weren't] playing baseball.</p> <p>注意 ing 形の作り方</p> <p>① 通常 → そのまま -ing。 read → reading, watch → watching ② 語尾が e → e をとって -ing。 come → coming ③ 語尾が <短母音 + 子音字> → 子音字を重ねて -ing。 run → running</p>	<p>● 1つの文には、be 動詞か一般動詞のどちらか1つを使うのが基本。 × I am like baseball. ○ I like baseball.</p> <p>● 一般動詞の疑問文は、be 動詞ではなく、文頭に Do [Does] をつけることを確認する。 × Are you like music? ○ Do you like music?</p> <p>● 疑問詞がある疑問文は、<疑問詞 + do [does] + 主語 + 動詞の原形 ~ ?> の形になることを確認する。ただし、疑問詞が主語になる場合、do [does] は使わない。 例：Who cooks breakfast?</p> <p>● 規則動詞の過去形の作り方の例外</p> <p>① 語尾が e → d だけをつける ② 語尾が <子音字 + y> → y を i にかえて ed をつける。 ③ 語尾が <短母音 + 子音字> → 子音字を重ねて ed をつける。</p> <p>● 不規則動詞の形</p> <p>AAA 型 → cut-cut-cut など ABB 型 → sit-sat-sat など ABA 型 → run-ran-run など ABC 型 → drive-drove-driven など</p> <p>● 疑問詞がある疑問文は、<疑問詞 + did + 主語 + 動詞の原形 ~ ?> の形になることを確認する。ただし、疑問詞が主語になる場合、過去形の動詞が続く。 例：Who cooked breakfast?</p> <p>● 過去を表す語句 (yesterday, last week など) や進行形を表す語句 (now など) で時制を判断できることを確認させる。</p> <p>● 動作が進行中であることを表すときに進行形を用いること、be 動詞は主語・時制によって使い分けを確認する。</p> <p>● 進行形は「動作」を表す動詞だけのものであり、「知っている」や「持っている」などの状態を表す場合は進行形にできないことを理解させる。ただし、have が「食べる」という動作を表すときには進行形にできることを説明する。</p>

3

未来

【主な学習内容】

◎未来の文

◎Will you ~? と Shall I[we] ~? の文

◆指導ページ P.14 ~ 19 ◆

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 未来を表す will</p> <p>☆ 〈will + 動詞の原形〉→「~するでしょう」「~するつもりである」</p> <p>○ 肯定文→〈主語 + will + 動詞の原形~.〉 She will study English tomorrow.(彼女は明日、英語を勉強するでしょう。)</p> <p>○ 疑問文→ will を主語の前に出す。 Will she study English tomorrow?(彼女は明日、英語を勉強するでしょうか。) 〔答え方〕 Yes, she will.(はい、するでしょう。) No, she will not[won't].(いいえ、しないでしょう。)</p> <p>○ 否定文→ will の後に not を入れる。 She will not[won't] study English tomorrow.(彼女は明日、英語を勉強しないでしょう。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●未来を表す語句(tomorrow, next week など)に注目すると、未来の文かどうかがわかることを説明する。 ●「~するでしょう」の意味で、単なる未来を表す場合と、「~するつもりである」の意味で、主語の意志を表す場合があることを説明する。 ●will は can や must と同じく助動詞なので、主語が何であってもその形は変わらないことを理解させる。
<p>② Will you ~? と Shall I[we] ~?</p> <p>☆ Will you ~? → 依頼・勧誘</p> <p>① 何かを頼むとき。「~してくれませんか」 Will you open the window?(窓を開けてくれませんか。) 〔答え方〕 All right. / Sure.(いいですよ。)</p> <p>② 何かを勧めたり、誘ったりするとき。「~しませんか」 Will you have a cup of coffee?(コーヒーを一杯飲みませんか。) 〔答え方〕 Yes, please.(はい、お願いします。) No, thank you.(いいえ、結構です。)</p> <p>☆ Shall I ~? → 提案</p> <p>○ 何かを申し出るとき。「~しましょうか[してあげましょうか]」 Shall I carry this bag?(このかばんを運びましょうか。) 〔答え方〕 Yes, please.(はい、お願いします。) No, thank you.(いいえ、結構です。)</p> <p>☆ Shall we ~? → 勧誘</p> <p>何かに誘うとき。「~しましょうか」</p> <p>○ Shall we go on a picnic?(ピクニックに行きましょうか。) 〔答え方〕 Yes, let's.(はい、そうしましょう。) No, let's not.(いいえ、やしましょう。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●依頼の Will you ~? は Please ~. とほぼ同じ意味になる。 ●依頼の文には、ほかに Can you ~? の文がある。Would you ~?, Could you ~? と表現すると、より丁寧な依頼の文になる。 ●Shall we ~? は Let's ~. とほぼ同じ意味になる。 ●shall は will と同じく未来を表す助動詞だが、Shall I[we] ~? の形以外ではあまり使われない。
<p>③ 未来を表す be going to</p> <p>☆ 〈be going to + 動詞の原形〉→「~するつもりである」「~するでしょう」</p> <p>○ 肯定文→〈主語 + be going to + 動詞の原形~.〉 I am going to swim tomorrow.(私は明日、泳ぐつもりです。)</p> <p>○ 疑問文→ be 動詞を主語の前に出す。 Are you going to swim tomorrow?(あなたは明日、泳ぐつもりですか。) 〔答え方〕 Yes, I am.(はい、そうです。) No, I am[I'm] not.(いいえ、ちがいます。)</p> <p>○ 否定文→ be 動詞の後に not を入れる。 I am[I'm] not going to swim tomorrow.(私は明日、泳ぐつもりはありません。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●be going to の be 動詞は、主語に合わせて am, is, are を使い分けることを説明する。 ●be going to の後には必ず動詞の原形がくることを理解させる。 ●be going to の疑問文・否定文の作り方は、通常の be 動詞を使った文のときと同じであることを説明すると理解しやすい。

4

助動詞

【主な学習内容】

- ◎ can, may, must の用法
- ◎ have to, be able to の用法

◆指導ページ P.20 ~ 25 ◆

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 助動詞 (can, may, must)</p> <p>☆ 助動詞→動詞の前におき、動詞の意味を助ける働きをする。</p> <p>① <can + 動詞の原形> → 「～することができる」「～してもよい」(過去形は could) He can use a computer.(彼はコンピュータを使うことができます。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 疑問文 → can を主語の前に出す。 Can you play the guitar?(あなたはギターをひくことができますか。) [答え方] Yes, I can.(はい, できます。) No, I can't[cannot].(いいえ, できません。) ○ 否定文 → 動詞の前に can't[cannot] を置く。 I can't[cannot] speak French.(私はフランス語を話すことができません。) ○ Can[Could] you ~? → 「～していただけますか」<依頼> <p>② <may + 動詞の原形> → 「～してもよい」「～かもしれない」 You may go shopping.(買い物に行ってもよい。) It may snow this evening.(今夜, 雪が降るかもしれない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ May I ~? → 「～してもいいですか」<許可を求める> <p>③ <must + 動詞の原形> → 「～しなければならない」 We must work hard.(私たちは一生懸命に働かなくてはならない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <must not + 動詞の原形> → 「～してはいけない」<禁止> You must not[mustn't] swim in this river.(この川で泳いではいけません。) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 助動詞の訳し方はそれぞれ文脈から判断することを説明する。 ● Can I ~? で「～してもよいですか」と許可を求める表現になる。 ● May I ~? 「～してもいいですか」の疑問文に対して, Yes, you may. / No, you may not. という返事は目下の者か子供に対するものなので, ふつうは Sure.(もちろん), Yes, of course.(はい, もちろん), I'm sorry, but you can't.(すみませんが, だめです。)などと答える。 ● must の文は命令文に書きかえられることを説明する。
<p>② have to と be able to</p> <p>☆ have to は must, be able to は can と同じ意味を表す。</p> <p>① <have to + 動詞の原形> → 「～しなければならない」 (= must) You have to do your homework. = You must do your homework. (あなたは宿題をしなければなりません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 疑問文 → <Do[Does] + 主語 + have to + 動詞の原形 ~? > Do you have to practice the piano?(あなたはピアノを練習しなければなりませんか。) [答え方] Yes, I do. / No, I don't. ○ 否定文 → <don't[doesn't] have to + 動詞の原形> 「～しなくてもよい, ~する必要がない」 You don't have to go there.(あなたはそこに行かなくてもよい。) <p>② <be able to + 動詞の原形> → 「～することができる」 (= can) She is able to read Chinese. = She can read Chinese. (彼女は中国語を読むことができます。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 疑問文 → <be 動詞 + 主語 + able to + 動詞の原形 ~? > Are you able to run fast?(あなたは速く走ることができますか。) [答え方] Yes, I am. / No, I'm not. ○ 否定文 → be 動詞の後に not をおく。 I am not able to swim well.(私は上手に泳ぐことができません。) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主語が3人称単数のときには have to → has to になることを説明する。 ● must には過去形がないので, 代わりに have to を使うことを説明する。その場合, have to は had to になる。 ● will must, will can のように言うことはできないので, 未来の文では will have to, will be able to を用いる。 ● must ⇔ have to, can ⇔ be able to の書きかえ問題は頻繁に出題される。must の否定形は禁止の意味になるため, 書きかえの際に特に注意が必要であることを説明する。

5

命令文・疑問詞を使った文

【主な学習内容】

- ◎命令文と Let's ~. の文
- ◎疑問詞を使った文

◆指導ページ P.26 ~ 31 ◆

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 命令文と Let's ~. の文</p> <p>☆ 命令文→「～しなさい」と相手に命令する文。(動詞の原形～.)</p> <p>① 一般動詞の文→主語を省略し、動詞の原形で始める。 You stand up. → Stand up.(立ちなさい。)</p> <p>② be 動詞の文→主語を省略し、be 動詞の原形 be で始める。 You are careful. → Be careful.(注意しなさい。)</p> <p>③ 否定の命令文→「～するな、～してはいけない」と言うときは、文頭に Don't をおく。 Don't play baseball in this park.(この公園で野球をしてはいけない。)</p> <p>○ ていねいに言うときは、文の初めか終わりに please をおく。 Stand up. → Please stand up. / Stand up, please.(立ってください。)</p> <p>☆ Let's ~. の文→「～しましょう」と相手を何かに誘う文。(Let's + 動詞の原形～.) Let's play soccer.(サッカーをしましょう。)</p> <p>[答え方] Yes, let's. / No, let's not.(はい、しましょう。/ いや、やめておきましょう。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 命令文は You must ~. の文に書きかえられる。 Stand up. = You must stand up. ● 否定の命令文は You must not ~. の文に書きかえられる。 ● Be ~. の命令文の否定形は Be not ~ でなく、Don't be ~. になることを理解させる。 ● Please を文の終わりにおくときは、その前にコンマを入れることを確認する。 ● Let's ~. は Shall we ~? の文に書きかえられることを説明する。 Let's play soccer. = Shall we play soccer?
<p>② 疑問詞を使った文</p> <p>☆ 疑問詞の用法 疑問詞は必ず文頭に置く。疑問詞で始まる文に答えるときには Yes, No は使わない。</p> <p>☆ 疑問詞の種類</p> <p>① what = 「何」 What did you buy?(あなたは何を買いましたか。)</p> <p>② whose = 「だれの」 Whose notebook is this?(これはだれのノートですか。)</p> <p>③ where = 「どこ」 Where did she go?(彼女はどこに行ったのですか。)</p> <p>④ when = 「いつ」 When do you study English?(あなたはいつ英語を勉強しますか。)</p> <p>⑤ which = 「どちら」 Which is your umbrella?(どちらがあなたの傘ですか。)</p> <p>⑥ how = 「どのように」 How is the weather?(天気はどうか。)</p> <p>* <what + 名詞> = 「何の～」 What sport do you like?(あなたは何のスポーツが好きですか。)</p> <p>* <who + 動詞～?> → 疑問詞が主語のとき、<疑問詞 + 動詞～?> の語順になる。 Who broke the window?(だれが窓を割ったのですか。)</p> <p>☆ <How + 形容詞(副詞)～?> の文 「どのくらい～?」と数、長さ、高さなどをたずねる。 How many cats do you have?(あなたはネコを何匹飼っていますか。)</p> <p>How long is the river?(その川の長さはどれくらいですか。)</p> <p>How tall is your brother?(あなたのお兄さんの身長はどのくらいですか。)</p> <p>☆ Why ~? の文→「なぜ」と原因・理由をたずねる。</p> <p>① why を文頭におき、ふつうの疑問文の形を続ける。</p> <p>② 「(なぜなら)～だからだ」と理由を答えるときには Because ~. を用いる。 Why are you smiling?(あなたはなぜ笑っているのですか。)</p> <p>— Because I'm happy.(うれしいからです。)</p> <p>③ Why ~? の文には <To + 動詞の原形.> 「～するためだ」で答えることもできる。 Why did you get up early?(あなたはなぜ早く起きたのですか。)</p> <p>— To run in the park.(公園で走るためです。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Who ~? の文に答えるときは、注意が必要であることを説明する。 例 1 Who broke the window? × It is my brother. ○ My brother did. 例 2 Who is watching TV? × My brother does. ○ My brother is. * 答えるときは、Who ~? の文に使われている動詞と時制に合わせ、<主語 + 動詞～.> の形で答える。 ● who のあとに一般動詞の現在形がくる場合は、動詞に -(e)s をつける。 例 Who uses this desk? — My brother does. ● 手段や方法をたずねる文の答え方を確認する。 How did you come here? — I came here by bus. / By bus. * by のあとの名詞は無冠詞、単数。 ● How many のあとにくる名詞は複数形にすることを確認する。 ● <How + 形容詞(副詞)～?> の例として、他に以下のものがある。 ・ How many times ~? = 「何回」 ・ How old ~? = 「何歳」 ・ How much ~? = 「(値段が)いくら」 ・ How high ~? = 「(山などが)どのくらいの高さ」 ・ How far ~? = 「どのくらい遠く」 ・ How fast ~? = 「どのくらい速く」 ・ How often ~? = 「どのくらいの頻度で」 ● Because は接続詞なので、あとに <主語 + 動詞～.> の文が続く。この場合、主語がだれであるかに注意して英文を作るように指導する。

6

比較

◆指導ページ P.32 ~ 37◆

【主な学習内容】

- 形容詞、副詞の原級、比較級、最上級
- 比較級・最上級・原級を使った文

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 原級・比較級・最上級</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 原級・比較級・最上級 形容詞、副詞には原級(もとの形)、比較級、最上級の形がある。</p> <p>☆ 比較級・最上級の作り方</p> <p>① 語尾に -er, -est をつける。 young - younger - youngest</p> <p>② つづりの長い語は前に more, most をつける。 expensive - more expensive - most expensive</p> <p>③ 特別な形になるもの。 good[well] - better - best bad - worse - worst</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●●比較・最上級の作り方 <ul style="list-style-type: none"> ①〈原級 + er, est〉の例外 <ul style="list-style-type: none"> ・語尾が e → 〈原級 + r, st〉 ・語尾が子音 + y → y を i にかえて er, est ・語尾が短母音 + 子音字 → 子音字を重ねて er, est ②語尾が -ly で終わる副詞は、ふつう〈more, most + 原級〉になるが、early は例外なので注意する。early - earlier - earliest ③特別な形になるもの <ul style="list-style-type: none"> many[much] - more - most little - less - least
<p>② 比較級の文</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 比較級の文〈比較級 + than ...〉 2つのものを比べて「…より～」と言うとき、〈比較級 + than ...〉の形で表す。 〔形容詞〕 My room is smaller than yours.(私の部屋はあなたのより小さい。) 〔副詞〕 He cooks better than I[me].(彼は私より上手に料理します。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●●much[a little] + 比較級 He is much older than I[me]. (彼は私よりもずっと年上です。) He is a little older than I[me]. (彼は私よりも少し年上です。) ●●than より前にある語句と重複する部分は省略できる。 He cooks better than I (do). ●●than I はくだけた言い方では than me となる。
<p>③ 最上級の文</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 最上級の文〈the + 最上級(+ in[of]...)〉 3つ以上のものを比べて「いちばん…」と言うとき、〈the + 最上級(+ in[of]...)〉の形で表す。 〔形容詞〕 I am the tallest in my family.(私は家族の中でいちばん背が高い。) 〔副詞〕 He runs the fastest of the three.(彼は3人の中でいちばん速く走ります。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●●〈最上級 + in, of〉 <ul style="list-style-type: none"> ①〈in + 場所・範囲・集団を表す語句〉 例：in Japan, in the class, in the world ②〈of + 複数を表す語句〉 例：of all, of us, of the three, of the boys ●●〈one of the + 最上級〉 Mt. Fuji is one of the most popular mountain in the world. (富士山は世界で最も有名な山の1つです。)
<p>④ like ~ better, like ~ the best の文</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ like ~ better, like ~ the best の文 like ~ better than ...で「…より～のほうが好きだ」、like ~ the best (of[in]...)で「(…の中で)～がいちばん好きだ」という意味を表す。 I like white better than black.(私は黒よりも白のほうが好きです。) I like cats the best of all animals.(私はすべての動物の中でネコがいちばん好きです。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●●Which do you like better, A or B?(A と B ではどちらのほうが好きですか。) ●●Which do you like the best of [in] ~ ? (～の中でどれがいちばん好きですか。)
<p>⑤ as ~ as ... の文</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ as ~ as ... の文 → 「…と同じくらい～」 2つのものを比べて「…と同じくらい～」と言うとき、〈as + 原級 + as ...〉の形で表す。 I got up as early as my mother.(私は母と同じくらい早く起きました。)</p> <p>○ 否定形の〈not as ~ as ...〉は「…ほど～ではない」という意味を表す。 Bob doesn't study as hard as me.(ボブは私ほど一生懸命に勉強しません。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●●as ~ as I が正式な形だが、ふつうは as ~ as me[I am] の形が使われる。 ●●not as ~ as ... は、比較級を使って同じ意味を表せる。 Bob doesn't study as hard as me. = I study harder than Bob.

7

不定詞・動名詞

【主な学習内容】

◆指導ページ P.38 ~ 43 ◆

- 不定詞の3用法(名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法)
- 〈ask[tell, want] ... to ~〉の用法
- 動名詞の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 不定詞</p> <p>☆ 不定詞→(to + 動詞の原形)</p> <p>① 名詞的用法→名詞と同じ働き。「~すること」 I like <u>to play</u> soccer.(動詞の目的語) <u>To play</u> soccer is fun.(主語) My hobby is <u>to collect</u> foreign stamps.(補語)</p> <p>② 副詞的用法→動詞を修飾する副詞と同じ働き。「~するために」 I went to the department store <u>to buy</u> a bag.</p> <p>③ 形容詞的用法→(代)名詞を修飾する働き。「~するための」「~すべき」 I have a lot of work <u>to do</u>.(私はするべきたくさん仕事があります。)</p> <p>参考 名詞的用法の不定詞は、前の動詞と結び付けて日本語らしく訳す。 want to ~ 「~したい(と思う)」 begin to ~ 「~し始める」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●名詞的用法で使われる次の動詞は「~すること」の例としてすべて覚えさせる。 like, want, begin, start, try, need, hope, agree, plan など ●前置詞の to のあとには(代)名詞がくることを確認する。 I want <u>to</u> play tennis. →不定詞 They went <u>to</u> Hawaii. →前置詞 ●Why ~? の疑問文には、 〈Because ~.〉で理由を答えるほかに、不定詞の副詞的用法で目的をで答えることもできる。 Why do you study English? → Because I like English.(理由) To go to America.(目的)
<p>2 〈ask[tell, want] ... to ~〉の用法</p> <p>☆ 〈ask ... to ~〉→「...に~するように頼む(言う)」 I asked <u>Tom to help</u> me.(トムに助けてくれるよう頼んだ)</p> <p>☆ 〈tell ... to ~〉→「...に~するように言う(命じる)」 My mother told <u>me to stay</u> at home.(私に家にいるように言った)</p> <p>☆ 〈want ... to ~〉→「...に~してほしい(と思う)」 Everyone wanted <u>him to win</u> the game.(彼に試合に勝ってほしかった)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●〈ask + 人 + to + 動詞の原形〉の語順と形を理解させる。 ●teach も同じ用法で使える動詞として覚えさせる。 She taught us to make pizza.
<p>3 動名詞の用法</p> <p>☆ 動名詞の意味・用法→名詞のような働きをする動詞の ing 形。</p> <p>① 動詞の目的語→「~すること」 The baby began <u>crying</u>. (= The baby began <u>to cry</u>.)</p> <p>② 前置詞の目的語→「~すること」 Thank you for <u>calling</u>. (電話をかけてくれたことを→電話をかけてくれて)</p> <p>③ 文の主語→「~することは」 <u>Studying</u> French is difficult. (= It is difficult <u>to study</u> French.)</p> <p>④ 文の補語→「~することである」 My hobby is <u>taking</u> pictures. (= My hobby is <u>to take</u> pictures.)</p> <p>○ 動名詞と不定詞の使い分け→動詞によって決まる。</p> <p>① 動名詞だけ目的語にとる動詞→enjoy, finish など I don't enjoy <u>writing</u> letters. Tom finished <u>doing</u> his homework.</p> <p>② 不定詞だけ目的語にとる動詞→want, hope など Do you want <u>to go</u> there? I hope <u>to be</u> a great player.</p> <p>③ 動名詞, 不定詞の両方を目的語にとる動詞 → like, love, begin, start など I like <u>getting</u> up early. = I like <u>to get</u> up early. It started <u>raining</u>. = It started <u>to rain</u>.</p> <p>注意 〈be 動詞 + ~ ing 形〉の動名詞は、進行形と間違えないようにする。 Mike is <u>playing</u> soccer. →進行形 Mike's hobby is playing soccer. →動名詞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前置詞の目的語になる動名詞の例 be interested in ~ ing be excited about ~ ing instead of ~ ing ●to の後に動名詞がくる例 look forward to ~ ing prefer ... to ~ ing ●stop ~ ing と stop to ~ の違いは頻繁に出るので、意味・用法を理解させる。 They stopped <u>talking</u>. (話すのをやめた。) They stopped <u>to talk</u>. (話すために立ち止まった。)

【主な学習内容】

- ◎接続詞 (and, but, or, so, when, if, because, before, after) の用法
- ◎接続詞 that の用法と時制の一致

◆指導ページ P.44 ~ 49 ◆

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 等位接続詞 (and, but, or, so)</p> <p>☆ 等位接続詞 (and, but, or, so) → 語と語, 句と句, 節と節を対等につなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ and「～と…, ～そして…」 Tom plays soccer and baseball. (トムはサッカーと野球をします。) ○ but「～しかし…, ～だが…」 I like English but my sister doesn't. (私は英語が好きですが, 妹はそうではありません。) ○ or「～か, または, それとも」 Do you like cats or dogs? (あなたはネコが好きですか, それともイヌが好きですか。) ○ so「～だから[それで]…」 I was busy, so I didn't watch TV. (私は忙しかったので, テレビを見ませんでした。) 	<ul style="list-style-type: none"> ●節…〈主語 + 動詞〉を含む2つ(以上)のまとまりが接続詞によって結ばれている場合, それらのまとまりは, 大きな1つの文の一部にすぎないので, 「節」と呼ばれる。 ●それぞれの接続詞の意味を理解させる。 and → 前後の2つの要素を対等に結ぶ。 but → 前後の2つの要素の対立を表す。 or → 2つの中からの選択を示す。 so → 因果関係を表す。
<p>② 従位接続詞 (when, if, because, before, after)</p> <p>☆ 従位接続詞 (when, if, because, before, after) → 主節と従属節を結びつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ when「～する[した]とき」 When it rains, I usually stay at home. = I usually stay at home when it rains. (雨降りのとき, 私はたいてい家にいます。)* when 節が後半の場合, コンマは不要。 ○ if「もし～ならば」 If it's fine tomorrow, I'll play soccer. (もしあした晴れたら私はサッカーをします。) * 時や条件を表す接続詞に導かれる節では, 未来の内容でも現在形で表す。 ○ because「～なので, ～だから」 I can't run because I'm very tired. (私はとても疲れているので, 走れません。) ○ before「～する前に」 I brush my teeth before I go to bed. (私は寝る前に, 歯を磨きます。) ○ after「～したあとで, ～してから」 I arrived after he left. (私は彼が去ったあとに到着しました。) 	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの接続詞の意味を理解させる。 when → 時を表す。 If → 条件を表す。 because → 理由・原因を表す。 before → 以前を表す。 after → 以後を表す。 ●時や条件を表す接続詞に導かれる節では, 未来のことを表すのに現在形を使うことを説明する。 When the game is over, I'll call you. (試合が終わったら, あなたに電話します。) If it rains tomorrow, we won't go camping. (もしあした雨が降ったら, 私たちはキャンプに行きません。)
<p>③ 接続詞 that と時制の一致</p> <p>☆ 接続詞 that の意味・用法 → 主節と従属節をつなぐ。「～ということ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 〈主語 + 動詞 + that + 主語 + 動詞～.〉that 以下は前の動詞の目的語。 I think (that) he is at home. (彼は家にいると思います。)* that は省略可能。 ○ that 節を目的語にとる動詞 I know that ～ 「～だと知っている」 I think that ～ 「～だと思う」 I hope that ～ 「～だとよいと思う」 I believe that ～ 「～だと信じている」 <p>☆ 時制の一致 → 主節の文の動詞と, that 以下(従属節)の(助)動詞の時制を一致させる。</p> <p>[現在] I know he is kind. (私は彼が親切であることを知っています。)</p> <p>[過去] I <u>thought</u> he <u>was</u> kind. (私は彼が親切であることを知っていました。)</p> <p style="margin-left: 40px;">↑ * thought に合わせて is も過去形(was)にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●that 前の〈主語 + 動詞〉が主節, that 以下が従属節であることを説明する。 ●接続詞の that はよく省略されることを説明する。 ●〈主語 + 動詞 + that ～.〉のその他の例。 I feel that ～. 「私は～だと感じる」 I hear that ～. 「私は～だと聞く」 They say that ～. 「彼らは～だと言う」 ●主節の動詞が現在形するとき, that 以下の動詞には未来形や過去形も使える。 I think he will visit you. I think he visited Tokyo. ●時制の一致で that 以下の動詞が過去形になっても, 日本語では現在時制で訳すことを説明する。 I thought he was at home. (私は彼が家にいると思いました。) ●that 以下に助動詞がある場合, 時制の一致によって助動詞が過去形になることを説明する。 I know you can do it. → I knew you could do it.

【主な学習内容】

◎5文型(SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC)

◆指導ページ P.50 ~ 55 ◆

学習内容	補足・留意事項など
<p>① SVの文</p> <p>☆ 英文は、主語(S)、動詞(V)、補語(C)、目的語(O)と修飾語句からなる。</p> <p>☆ SVの文：主語+動詞 主語と動詞で成り立っている文。内容を説明する修飾語句がつくことが多い。 <u>Bob sings well.</u>(ボブは上手に歌います。) S V ↑ 副詞(動詞を修飾している)</p> <p>② SVCの文 / SVOの文</p> <p>☆ SVCの文：主語+動詞+補語 補語とは動詞を補って主語を説明する語のこと。(代)名詞、形容詞が補語になる。</p> <p>① be動詞を使ったSVCの文 <u>He is John.</u>(彼はジョンです。) S V C (S=C: He=John)</p> <p>② 一般動詞を使ったSVCの文 <u>You look happy.</u>(あなたは幸せそうに見えます。) S V C (S=C: You=happy)</p> <p>☆ SVOの文：主語+動詞+目的語 目的語とは動詞の対象となる語のこと。(代)名詞や名詞と同じ働きをする語句がなる。</p> <p>・ <u>I like soccer.</u> ・ <u>I like to play tennis.</u> ・ <u>I like playing tennis.</u> S V O S V O S V O</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 文を構成する要素(主語・動詞・目的語・補語)の組み合わせによって、文型が決まる。 ● 基本5文型は〈S+V〉〈S+V+C〉〈S+V+O〉〈S+V+O+O〉〈S+V+O+C〉である。 ● 〈S+V+C〉の文で使われる動詞として、become(～になる)、get(～になる)、seem(～に思える)、sound(～に聞こえる)、keep(～のままにしている)などがある。 He became a doctor.(彼は医者になりました。) It got cold.(寒くなりました。) Your idea sounds nice.(あなたの考えはよさそうですね。) ● 〈look like+名詞〉で「～のように見える」の意味を表す。 ● 〈S+V+O〉の文で使われる動詞は目的語を必要とする。 ● 目的語は「～を」「～に」にあたる語で、(代)名詞や名詞と同じ働きをする語句がなること、形容詞や副詞は目的語にならないことを説明する。
<p>③ SVOOの文 / SVOCの文</p> <p>☆ SVOOの文：主語+動詞+目的語+目的語 ○〈S+V+O(人)+O(もの)〉の語順になる。</p> <p>① 〈S+V+O(もの)+to+O(人)〉に書きかえられる動詞：give, show, pass, teach など <u>I gave her flowers.</u> → <u>I gave flowers to her.</u> S V O O S V O</p> <p>② 〈S+V+O(もの)+for+O(人)〉に書きかえられる動詞：buy, find, cook, make など <u>I bought her flowers.</u> → <u>I bought flowers for her.</u> S V O O S V O</p> <p>☆ SVOCの文：主語+動詞+目的語+補語 この文型で使う動詞は、目的語だけでは意味が完結せず、あとに目的語を説明する補語を必要とする。</p> <p>○ 〈call+O+C〉「OをCと呼ぶ」 <u>I call him Taku.</u>(私は彼をタクと呼びます。) S V O C (C=名詞)</p> <p>○ 〈make+O+C〉「OをCにする」 <u>He made me happy.</u>(彼は私を幸せにしました。) S V O C (C=形容詞)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 〈S+V+O(人)+O(もの)〉のOの順番を入れかえる場合、〈S+V+O(もの)+to[for]+O(人)〉の形、つまり〈S+V+O〉の文になる。このとき、O(人)の前にくる前置詞は、動詞によってtoまたはforになることを説明する。 He showed me his notebook. → He showed his notebook to me. I'll find you a nice seat. → I'll find a nice seat for you. ● 〈S+V+O+C〉の文では、O=Cの関係が成り立つことを説明する。 I call him Taku. (him = Taku) He made me happy. (me = happy)

【主な学習内容】

◆指導ページ P.56 ~ 61 ◆

- ◎能動態と受動態の違い
- ◎受動態の時制と前置詞 by の使い方
- ◎受動態の疑問文と否定文

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 能動態と受動態</p> <p>☆ 能動態の文→動作をするものが主語。「…は～する[した]」 John loves Mary.(ジョンはメアリーを愛しています。)</p> <p>☆ 受動態の文→動作を受けるものが主語。 「…は～される[された]」(be 動詞+過去分詞(+ by ~)) Mary is loved by John.(メアリーはジョンによって愛されています。)</p> <p>☆ <by ~>→「～によって」 行為者を示すとき、文末につける。 She cooked the lunch. → The lunch was cooked <u>by her</u>. ↑ <by + 名詞, または代名詞目的格></p> <p>☆ 過去分詞→動詞には原形・現在形・過去形・過去分詞がある。 受動態では過去分詞を使う。 〔過去分詞の作り方〕 ① 規則動詞→過去形と同じ形。-(e)dをつける。 lived-lived-lived ② 不規則動詞→不規則に変化。動詞ごとに覚える。 drive-drove-driven</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●●受動態の be 動詞は主語や時制によって決まることを説明する。 ●●by は前置詞なので後ろの代名詞は目的格(me, you, him, her, us, them)になることを説明する。 ●●行為者を表す必要のないとき(by them, by us など), by は省略されることが多いことを説明する。 English is spoken(by people)in America.(アメリカでは英語が話されています。) ●●規則動詞の作り方は過去形の作り方と同じである(過去形=過去分詞)ことを説明する。 ・ふつう→edをつける。 ・eで終わる動詞→dだけつける。 ・子音+yで終わる動詞 →yをiにかえてedをつける。 ・短母音+子音字 →子音字を重ねてedをつける。 ●●不規則動詞の変化の種類 AAA型 cut-cut-cut, hit-hit-hit ABB型 sit-sat-sat, get-got-got ABA型 run-ran-run, come-came-come ABC型 write-wrote-written
<p>2 受動態の時制</p> <p>☆ 受動態の時制→be 動詞の時制で決まる。 ① 現在の文→<is[am, are]+過去分詞>「～される, ～されている」 He uses this computer. → This computer <u>is used</u> by him.(このコンピュータは彼に使われています。)</p> <p>② 過去の文→<was[were]+過去分詞>「～された, ～されていた」 He used this computer. → This computer <u>was used</u> by him.(このコンピュータは彼に使われていました。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●●受動態の be 動詞は主語や時制によって決まることを説明する。
<p>3 受動態の疑問文と否定文</p> <p>☆ 受動態の疑問文→<be 動詞+主語+過去分詞 ~ ?> This car <u>is</u> used by Tom. → Is this car used by Tom? 〔答え方〕 Yes, it is. / No, it isn't[is not].</p> <p>○ 疑問詞で始まる疑問文→<疑問詞+ be 動詞+主語+過去分詞 ~ ?> What is paper made from? 〔答え方〕 It is made from wood.</p> <p>☆ 受動態の否定文→<主語+ be 動詞+ not +過去分詞 ~ .> I am often invited to parties. → I'm <u>not</u> often invited to parties.</p> <p>☆ 能動態⇔受動態の書きかえ →時制, 主語の人称・数, be 動詞, do[does, did], byなどに注意。 〔能動態→受動態〕 Mary wrote this letter yesterday. → This letter <u>was written</u> by Mary yesterday. 〔受動態→能動態〕 <u>Was</u> this picture <u>taken</u> by him? → Did he take this picture?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●●受動態の否定文の作り方は be 動詞の否定文の作り方と同じことを説明する。 <be 動詞+ not +過去分詞>の語順。 ●●SVOO型の文からは2つの受動態ができる。 He gave <u>me</u> a book. O₁ O₂ O₁を主語にした場合 → I <u>was given</u> a book by him. O₂を主語にした場合 → A book <u>was given</u> to me by him.

【主な学習内容】

◆指導ページ P.62 ~ 67◆

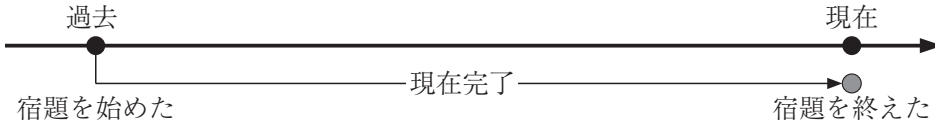
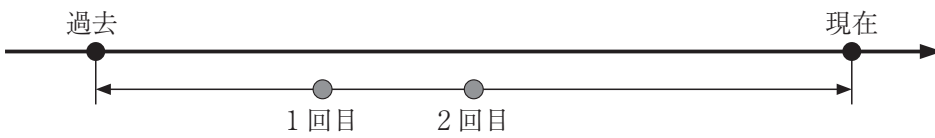
- ◎現在完了の形と用法
- ◎現在完了の継続用法の意味と使い方
- ◎現在完了の疑問文と否定文の作り方

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 現在完了の形と用法</p> <p>☆ 現在完了の形と用法→〈have [has] + 過去分詞〉で表す。 現在完了は現在のことを過去の動作や状態と関連づけて言うときに使う。主語が3人称・単数のときは has を使う。 I have played tennis for two years.(私はテニスを2年間(ずっと)しています。) Tom has stayed in Kyoto for three days.(トムは京都に3日間(ずっと)滞在しています。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●過去分詞の作り方を復習させる。 ⇒10課受動態(補足・留意事項)参照 ●現在完了と過去の違い 現在完了は過去の動作・状態を現在と関連づけて述べる表現方法。一方、過去の文は過去の実を表すだけである。 I studied English for three years. ⇒「過去に勉強した」 *現在との関連なし I have studied English for three years. ⇒「3年前から現在まで勉強している」
<p>② 継続を表す現在完了</p> <p>☆ 継続用法→動作・状態が過去から現在まで継続していることを表す。 「(ずっと)~している, ~である」 [過去] I lived in Tokyo five years ago.(私は5年前, 東京に住んでいました。) [現在] I live in Tokyo now.(私は今, 東京に住んでいます。) [現在完了] I have lived in Tokyo for five years. (私は東京に5年間(ずっと)住んでいます。)</p> <p>過去 (five years ago) ————— I have lived in Tokyo for five years. ————— 現在 (now)</p> <p>I lived in Tokyo five years ago. I live in Tokyo now.</p> <p>○ 過去・現在の文はその時点のことしか表していないが, 継続用法の現在完了は, 過去のある時点で始まった動作や状態が現在までずっと続いていることを表している。</p> <p>☆ 継続用法での〈for + 期間〉と〈since + 過去のある時点を表す語句や節〉 〈for + 期間〉は「~の間」, 〈since + 過去のある時点を表す語句や節〉は「~以来(から)」という意味を表す。 I have been busy <u>for</u> two days.(私は2日間ずっと忙しい。) I have been busy <u>since</u> yesterday.(私は昨日からずっと忙しい。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●I have → I've, you have → you've のように短縮できる。 he has → he's, she have → she's などの短縮形は, he is, she is の短縮形と同じなので, 後に続く語や文脈によって判断する必要があることを説明する。 ●be 動詞の過去分詞は主語が何であっても been になることを説明する。 I have been busy. He has been busy. ●since には接続詞の働きもあるので, 〈since + 節(= 主語 + 動詞)〉の形になることも説明する。 I have lived here since I was five.(私は5歳のときからここに住んでいます。)
<p>③ 現在完了の疑問文・否定文</p> <p>☆ 現在完了の疑問文→〈Have [Has] + 主語 + 過去分詞 ~ ?〉 疑問文は have [has] を主語の前に出す。継続用法の疑問文は「(ずっと)~していますか」という意味を表す。答えるときにも has [has] を用いる。 [肯定文] You have lived here for ten years. [疑問文] Have you lived here for ten years? [答え方] — Yes, I have. / No, I have not [haven't].</p> <p>○ 〈How long have [has] + 主語 + 過去分詞 ~ ?〉で「どのくらいの間~していますか」という意味を表す。 How long have you stayed in London?(どのくらいの間ロンドンに滞在していますか。) — I have stayed here for a week.(私はここに1週間滞在しています。)</p> <p>☆ 現在完了の否定文→〈主語 + have [has] not + 過去分詞 ~ 〉 否定文は have [has] の後に not を置く。継続用法の否定文は「(ずっと)~していません」という意味を表す。 [肯定文] I have lived here for ten years. [否定文] I have not [haven't] lived here for ten years.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●〈How long have [has] + 主語 + 過去分詞 ~ ?〉の問いには, 単に〈For + 期間.〉〈Since + 過去のある時点を表す語句や節〉で答えることが多い。 ●How long ~ ? 「どのくらいの間 ~ ?」は「いつから ~ ?」と訳した方が自然な日本語になる。その際, 〈For + 期間.〉の訳も「~の間」→「~前から」となることに注意。 How long have you been here? (いつからここにいるのですか。) — For an hour.(1時間前からです。) ●I have not は I haven't もしくは I've not と短縮できる。He has not → he hasn't / he's not などと同様である。

【主な学習内容】

- ◎現在完了の完了用法の意味と使い方
- ◎現在完了の経験用法の意味と使い方

◆指導ページ P.68 ~ 73 ◆

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 現在完了の完了用法</p> <p>☆ 完了用法→過去に始まった動作が完了したことを表す。 「～したところだ, ～してしまった」〈have[has]+過去分詞〉 I have just finished my homework.(私はちょうど宿題を終えたところです。)</p>  <p>☆ 疑問文→〈Have[Has]+主語+過去分詞~(yet)?〉 疑問文は have[has] を主語の前に出す。完了用法の疑問文は「(もう)～しましたか」という意味を表す。文末に yet「もう」を置くことが多い。 [肯定文] You have already eat lunch.(あなたはもう昼食を食べました。) [疑問文] Have you eaten lunch yet?(あなたはもう昼食を食べましたか。) [答え方] — Yes, I have. / No, I have not[haven't].</p> <p>○ 「すでに, もう」は, 肯定文では already, 疑問文では yet を使う。</p> <p>☆ 否定文→〈主語+ have[has] not +過去分詞~.〉 否定文は have[has] の後に not を置く。完了用法の否定文は「(まだ)～していません」という意味を表す。文末に yet「もう」を置くことが多い。 [肯定文] I have already eat lunch.(私はもう昼食を食べました。) [否定文] I have not[haven't] eaten lunch yet.(私はまだ昼食を食べていません。)</p> <p>○ 否定文では yet は「まだ」という意味を表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●完了用法によく用いられる副詞 just「ちょうど」, already「すでに, もう」, now「今」, yet「(疑問文で)すでに, もう」〔(否定文で)まだ〕 ●just, already, yet を文のどの位置に置くかを注意させる。 ・ just, already → have と過去分詞の間 I have just eaten lunch. (私はちょうど昼食を食べたところです。) ・ yet →文末 I have not eaten lunch yet. (私はまだ昼食を食べていません。) ●「すでに, もう」は肯定文では already, 疑問文では yet を使うことを説明する。 I have already washed my teeth. (私はもう歯を磨きました。) Have you washed your teeth yet? (あなたはもう歯を磨きましたか。) ●yet は疑問文では「すでに, もう」, 否定文では「まだ」という意味になることを説明する。 I have not washed my teeth yet. (私はまだ歯を磨いていません。)
<p>2 現在完了の経験用法</p> <p>☆ 経験用法→過去から現在までの経験を表す。 「(今までに)～したことがある」〈have[has]+過去分詞〉 I have seen the singer twice.(私はその歌手を2回見たことがあります。)</p>  <p>○ have been to ~で「～に行ったことがある」という意味を表す。</p> <p>☆ 疑問文→〈Have[Has]+主語(+ ever)+過去分詞~?〉「～したことがある」 [肯定文] I have been to Kyoto.(私は京都に行ったことがあります。) [疑問文] Have you ever been Kyoto?(今までに京都に行ったことがありますか。) [答え方] — Yes, I have. / No, I have not[haven't].</p> <p>○ 〈How often[How many times] have[has]+主語+過去分詞~?〉で「何回～したことがありますか」という意味を表す。 How often have you visited Osaka?(何回, 大阪を訪れたことがありますか。) = I have visited there three times.(私はそこに3回訪れたことがあります。)</p> <p>☆ 否定文→〈主語+ have[has] never +過去分詞~.〉「一度も～したことがない」 [肯定文] I have been to Kyoto.(私は京都に行ったことがあります。) [否定文] I have never been Kyoto.(今までに京都に行ったことがありません。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●経験用法によく用いられる副詞(句) often「しばしば」, before「以前」, ever「今までに」, never「一度も～ない」, once「1回」, twice「2回」, ~ times「～回」など。それぞれ文中での位置にも注意させる。 ●have been to ~の用法 「～に行ったことがある」(経験)と言うときは have gone to ~ではなく, have been to ~で表す。have gone to ~は「～へ行ってしまった」(だから今はいない)という意味を表す。なお, have been to ~には「～へ行ったところだ」(完了)という意味も表すので注意が必要。その際は just「ちょうど」などの語を伴うことが多い。 I have been to London.〔経験〕 (私はロンドンに行ったことがあります。) He has gone to London.〔結果〕 (彼はロンドンに行ってしまいました。) I have just been to the supermarket.〔完了〕 (私はちょうどスーパーへ行って来たところです。) ●現在完了の用法の見分け方 文中の語句に注目させる。 ・ since, for ⇒継続用法 ・ just, already, yet ⇒完了方法 ・ before, once, ~ times, ever, never ⇒経験用法